

# 聖書の神

「わたしたちの知識は一部分、預言も一部分だから。完全なものが来たときには、部分的なものは廃れよう。幼子だったとき、わたしは幼子のように話し、幼子のように思い、幼子のように考えていた。成人した今、幼子のことを棄てた。わたしたちは、今は、鏡におぼろに映ったものを見ている。だがそのときには、顔と顔とを合わせて見ることになる。わたしは、今は一部しか知らなくとも、そのときには、はっきり知られているようにはっきり知ることになる。」(1 コリ 13,9-12)

## A. 人間の認識と言語の限界

### A2. 物事を認識する方法 (認識論)

- ◇ 感覚 (見る、聞く、かぐ、味わう、さわる)、理性、信仰、愛
- ◇ 現実とは、非常に複雑で、すべての情報を受け入れることができないので、この現実の中に生きるために、興味のある情報や必要と思う情報だけを選んで、それに基づいて現実の図式的な (概要の) イメージを作ります。

### A2. 認識したものを表現する

- ◆ 同じ単語を用いても、一人ひとりとは違うことを表現しようとしているゆえに、相手を理解できないことや、誤解することがあります。
  - ⇒ 物質 (感覚) (暑い、冷たい、甘い、辛い、おいしい、まずい)
  - ⇒ 精神 (心) (悲しい、嬉しい、寂しい、楽しい、面白い、つまらない)
  - ⇒ 霊的 (魂) (美しい、素晴らしい、善、悪、真理)
- ◆ 人間は、自分の体験や感情を通常言葉によってのみ十分に表現することができないので、詩や音楽や絵などのような芸術的手段を用いることがあります。

### A3. 神について語る

「わたしたちの神認識には限界があるので、神に関するわたしたちのことばにも、限界があります。わたしたちは、被造物に基づいてしか神について語ることはできませんし、わたしたち人間の限られた知り方、考え方に沿ってしか、神について語ることはできないのです。」 CCE40  
「創造主と被造物の間には類似が認められても、それ以上に大きな相違が認められます。」 CCE43

CCE = カトリック教会のカテキズム

- ◆ 神の現実と私たちの現実とは全く異なりますから、私たちの言葉で神の現実を相応しく表現することが出来ません。(「神は光である」と言うときは、暗闇よりも、光の方が神の現実を正しく描きますが、神は、私たちが知っている光とまったく異なる方であると意味です。同じように：清い方、善、真実、愛)

## B. 神への道 (霊である神を知る方法)

1. 「造られたものの偉大さと美しさから推し量り、／それらを造った方を認めるはず。」 知 13:5
2. 「不義によって真理の働きを妨げる人間のあらゆる不信心と不義に対して、神は天から怒りを現されます。なぜなら、神について知りうる事柄は、彼らにも明らかだからです。神がそれを示されたのです。世界が造られたときから、目に見えない神の性質、つまり神の永遠の力と神性は被造物に現れており、これを通して神を知ることができます。従って、彼らには弁解の余地がありません。なぜなら、神を知りながら、神としてあがめることも感謝することもせず、かえって、むなしい思いにふけり、心が鈍く暗くなったからです。自分では知恵があると吹聴しながら愚かになり、滅びることのない神の栄光を、滅び去る人間や鳥や獣や這うものなどに似せた像と取り替えたのです。」  
ロマ 1:18-23
  - ◆ 神が創られた自然、人間の望み
  - ◆ 開かれた心、謙遜、神を見つけたいという望み、信頼、愛の必要性
3. 「神は、かつて預言者たちによって、多くのかたちで、また多くのしかたで先祖に語られたが、この終わりの時代には、御子によってわたしたちに語られました。神は、この御子を万物の相続者と定め、また、御子によって世界を創造されました。御子は、神の栄光の反映であり、神の本質の完全な現れであって、万物を御自分の力ある言葉によって支えておられますが、人々の罪を清められた後、天の高い所におられる大いなる方の右の座にお着きになりました。御子は、天使たちより優れた者となられました。天使たちの名より優れた名を受け継がれたからです。」 ヘブ 1:1-4
  - ◆ 預言者、イエス・キリスト (コロ 1,15 - 見えない神の姿)

## C. 私たちに知り得る神の本性

4. 「パウロは、アレオパゴスの真ん中に立って言った。「アテネの皆さん、あらゆる点においてあなたがたが信仰のあついでであることを、わたしは認めます。道を歩きながら、あなたがたが拝むいろいろなものを見てみると、『知られざる神に』と刻まれている祭壇さえ見つけたからです。それで、あなたがたが知らずに拝んでいるもの、それをわたしはお知らせしましょう。世界とその中の万物とを造られた神が、その方です。この神は天地の主ですから、手で造った神殿などにはお住みになりません。また、何か足りないことでもあるかのように、人の手によって仕えてもらう必要もありません。すべての人に命と息と、その他すべてのものを与えてくださるのは、この神だからです。神は、一人の人からすべての民族を造り出して、地上の至るところに住ませ、季節を決め、彼らの居住地の境界をお決めになりました。これは、人に神を求めさせるためであり、また、彼らが探し求めさえすれば、神を見いだすことができるようにということなのです。実際、神はわたしたち一人一人から遠く離れてはおられません。皆さんのうちのあついでる詩人たちが、／『我らは神の中に生き、動き、存在する』／『我らもその子孫である』と、／言っているとおりです。わたしたちは神の子孫なのですから、神である方を、人間の技や考えで造った金、銀、石などの像と同じものと考えてはなりません。」使 17:22-32

5. 「主は言われた。「わたしは、エジプトにいるわたしの民の苦しみをつぶさに見、追い使う者のゆえに叫ぶ彼らの叫び声を聞き、その痛みを知った。それゆえ、わたしは降って行き、エジプト人の手から彼らを救い出し、この国から、広々としたすばらしい土地、乳と蜜の流れる土地、カナン人、ヘト人、アモリ人、ペリジ人、ヒビ人、エブス人の住む所へ彼らを導き上る。見よ、イスラエルの人々の叫び声が、今、わたしのもとに届いた。また、エジプト人が彼らを圧迫する有様を見た。今、行きなさい。わたしはあなたをファラオのもとに遣わす。わが民イスラエルの人々をエジプトから連れ出すのだ。」出 3:7-10

- ◆ 世界を創造し、世界を越えている方（被造物の一部ではない）
- ◆ いつも（過去、現在、将来）存在している、始まりも、終わりもない。誰によっても創造されていない、絶対的な存在、他のものに依存せず、自立的・自発的で自在である
- ◆ 神の存在は何に頼らないので、存在するために被造物からは何も必要としていない
- ◆ 全てのものに存在を与え（命の源）、それを保つ方；絶対者、全知、全能者
- ◆ 世界の支配者（支える、世話する）、この世界と私たちの人生に関わっている方
- ◆ 人間のこと（必要性とか、痛みなど）を誰よりも知っていて、人間を助ける方
- ◆ 人間が神を捜し求めること、神と友情の関係を結ぶことを求め、その望みを人間に与える方
- ◆ 「何か」ではなく「誰か」（意志、心と知恵のある「どなたか」、位格的な存在、ペルソナ・Person)

6. 「わたしたち、つまり、わたしとシルワノとテモテが、あなたがたの間で宣べ伝えた神の子イエス・キリストは、「然り」と同時に「否」となったような方ではありません。この方においては「然り」だけが実現したのです。神の約束は、ことごとくこの方において「然り」となったからです。それで、わたしたちは神をたたえるため、この方を通して「アーメン」と唱えます。」2コリ 1:19-22

- ◆ 約束を与えることによって人を導く（目標を示す、育つ、成長させる）方、忠実な方
- ◆ 与えた約束をすべてキリストにおいて成就された方

7. 「わたしたちがイエスから既に聞いていて、あなたがたに伝える知らせとは、神は光であり、神には闇が全くないということです。わたしたちが、神との交わりを持っていると言いながら、闇の中を歩むなら、それはうそをついているのであり、真理を行ってはいけません。しかし、神が光の中におられるように、わたしたちが光の中を歩むなら、互いに交わりを持ち、御子イエスの血によってあらゆる罪から清められます。自分に罪がないと言うなら、自らを欺いており、真理はわたしたちの内にありません。自分の罪を公に言い表すなら、神は真実で正しい方ですから、罪を赦し、あらゆる不義からわたしたちを清めてくださいます。罪を犯したことがないと言うなら、それは神を偽り者とするのであり、神の言葉はわたしたちの内にありません。1ヨハ 1:5-10

- ◆ 光（善、真実、清い、罪のない方）、交わりを求める（人間は神と共に生きることが出来る）、罪をゆるす（和解、交流の回復）、誠実で正しい方

8. 「あなたがたは、御子が正しい方だと知っているなら、義を行う者も皆、神から生まれていることが分かるはずですが。御父がどれほどわたしたちを愛してくださるか、考えなさい。それは、わたしたちが神の子と呼ばれるほどで、事実また、そのとおりです。世がわたしたちを知らないのは、御父を知らなかったからです。愛する者たち、わたしたちは、今既に神の子ですが、自分がどのようになるかは、まだ示されていません。しかし、御子が現れるとき、御子に似た者となるということを知っています。なぜなら、そのとき御子をありのままに見るからです。御子にこの望みをかけている人は皆、御子が清いように、自分を清めます。」1ヨハ 2:28-3,3

- ◆ 神は、私たちの父であり、ご自分の命を与えることによって人間をご自分の子（養子）にしてください、人間が御独り子（イエス・キリスト）のような者になることを求めておられます。

9. 「これによって、わたしたちは自分が真理に属していることを知り、神の御前で安心できます、心に責められることがあろうとも。神は、わたしたちの心よりも大きく、すべてをご存じだからです。愛する者たち、わたしたちは心に責められることがなければ、神の御前で確信を持つことができ、神に願うことは何でもかなえられます。わたしたちが神の掟を守り、御心に適うことを行っているからです。その掟とは、神の子イエス・キリストの名を信じ、この方がわたしたちに命じられたように、互いに愛し合うことです。神の掟を守る人は、神の内にもいつもとどまり、神もその人の内にとどまってください。神がわたしたちの内にとどまってくださいことは、神が与えてくださった霊によって分かります。」 1ヨハ 3:19-24

10. 「わたしたちは、わたしたちに対する神の愛を知り、また信じています。神は愛です。愛にとどまる人は、神の内にとどまり、神もその人の内にとどまってください。こうして、愛がわたしたちの内にも全うされているので、裁きの日に確信を持つことができます。この世でわたしたちも、イエスのようであるからです。愛には恐れがない。完全な愛は恐れを締め出します。なぜなら、恐れは罰を伴い、恐れる者には愛が全うされていないからです。わたしたちが愛するのは、神がまずわたしたちを愛してくださったからです。」 1ヨハ 4:16-19

- ◆ 神は、誰よりも私たちの弱さを理解し、いつくしみ深い方でありますので、神を恐れる必要がないし、神の前に安心すること、神を信頼することができます
- ◆ ご自分の霊（命、愛）を与える方
- ◆ 愛（そのもの）、愛の源、人間を愛の交わりへと招く方

D. 私たちの目標は、神を完全に認識し、理解する（一般的な意味で神を知る）ことではなく、神を愛することです。

「愛することのない者は神を知りません。神は愛だからです。」 1ヨハ 4:8

- ◆ 聖書において「神を知る」ということは、神について知識を持つということではなく、信仰と愛によって神と結ばれることです。この意味で神を段々と深く知ることによって人は、神の愛と命に満たされて、少しずつイエス・キリストの姿に変えられます。
- ◆ 神との関係を深めるためには、まずこの関係を正直に見つめ、あいまいな関係をよりはっきりさせ、その現状をありのまま認識する必要があります。そのために、神について思っていること（理性）よりも、感じていること（感情）をはっきりさせる必要があります。
- ◆ 神についての知識やイメージに執着するのは、偶像礼拝です。その場合は、生きておられる神との関係を深めることができません。古いイメージが消えることを許すと同時に、神についての考え方を正す必要があります。

E. 神への愛の成長を妨げ、それを不可能にする、間違った考え方に基づく神のイメージとイエスの教え。

- ◆ 時に私たちの神のイメージは、不完全であるだけでなく、全く間違っていることがあります。この間違った考え方のゆえに、神を探し求める代わりに、神を恐れて、遠ざけようとすることがあります。

E1. **間違い：** 神にとって内面的な行為（動機、考え、確信、感情）よりも、外面的な行為（盲目的従順）が重要です。神は、被統治者からただ従順を要求する**専制君主**や**独裁者**のような方です。

**イエスの教え：**

- ☐ 「偽善な律法学者、パリサイ人たちよ。あなたがたは、わざわいである。杯と皿との外側はきよめるが、内側は食欲と放縦とで満ちている。盲目なパリサイ人よ。まず、杯の内側をきよめるがよい。そうすれば、外側も清くなるであろう。」 マタ 23:25-26

E2. **間違い：** 神は、人間の行いを判断し、それに応じて報い、または、罰を与えます。神は、**無慈悲審判者**のような方です。

**イエスの教え：**

- ☐ 「わたしは、世を裁くためではなく、世を救うために来たからである。」 ヨハ 12:47
- ☐ 「わたしたちが愛するのは、神がまずわたしたちを愛してくださったからです。」 1ヨハ 4:19
- ☐ 「しかし、わたしたちがまだ罪人であったとき、キリストがわたしたちのために死んでくださったことにより、神はわたしたちに対する愛を示されました。」 ロマ 5:8
- ☐ 「しかし、わたしは言うておく。敵を愛し、自分を迫害する者のために祈りなさい。あなたがたの天の父の子となるためである。父は悪人にも善人にも太陽を昇らせ、正しい者にも正しくない者にも雨を降らせてくださるからである。」 マタ 5:44-45
- ☐ 「子たちよ、言葉や口先だけではなく、行いをもって誠実に愛し合おう。これによって、わたしたちは自分が真理に属していることを知り、神の御前で安心できます、心に責められることがあろうとも。神は、わたしたちの心よりも大きく、すべてをご存じだからです。」 1ヨハ 3:18-20

- E3. **間違い：** 人間にとってもっとも大切なのは、天国（救い）という報いを勝ち取ることです。神は、**熱心な刑事**のような方で、私たちを見張り、犯罪を裁判官に知らせる方です。

**イエスの教え：**

- ☐ 「弟子たちはこれを聞いて非常に驚き、「それでは、だれが救われるのだろうか」と言った。イエスは彼らを見つめて、「それは人間にできることではないが、神は何でもできる」と言われた。」マタ 19:25-26
- ☐ 「主人はその一人に答えた。『友よ、あなたに不当なことはしていない。あなたはわたしと一デナリオンの約束をしたではないか。自分の分を受け取って帰りなさい。わたしはこの最後の者にも、あなたと同じように支払ってやりたいのだ。自分のものを自分のしたいようにしては、いけないか。それとも、わたしの気前のよさをねたむのか。』マタ 20:13-15
- ☐ 「我々は、自分のやったことの報いを受けているのだから、当然だ。しかし、この方は何も悪いことをしていない。」そして、「イエスよ、あなたの御国においてになるときには、わたしを思い出してください」と言った。するとイエスは、「はっきり言っておくが、あなたは今日わたしと一緒に楽園にいる」と言われた。」ルカ 23:41-43
- ☐ 「つまり、神はキリストによって世を御自分と和解させ、人々の罪の責任を問うことなく、和解の言葉をわたしたちにゆだねられたのです。」2コリ 5:19

**F. 神の基本的なイメージ**

(性格によって人々は神の異なる側面によってより強く引かれます。異なる側面をより強く強調します。)

1. **一致** (統合を求める人にとって、神は最高で、唯一の神、すべてを統一させ、調和をもたらす方です。この人は、平和運動、差別反対運動、問題の解決などのようなものに興味がある)
2. **真理** (真理を追求する人にとって、神は、現実と人生に意義を与える方です。この人は哲学や神学に興味がある。)
3. **善** (正義や善に敏感な人にとって、神は、愛に基づく正しい人間関係の源です。この人は、福祉活動やボランティアの活動に興味がある。)
4. **美** (美を追求する人にとって、神は、永遠で、不動の美です。この人は、芸術に興味がある。)

**G. 人でない神**

「わたしは神であり、人間ではない」(ホセ 11:9)。神は、まったく人間とは異なっている。神は霊であり、人間は肉である(→イザ 31:3)。人間は、草のようにもろくはかない(イザ 40:7-8)。この違いは、あまりにも根本的であるため、人間は、いつもこれを誤って説明しがちである。すなわち、神の力を大きな効果を発揮する強さとは考えるけれども、神の人間に対する忠実の現われであるとはみないのである(→民 23:19)。神の聖については、人間の越ええない隔たりという面だけを見て、それが、同時に人間に対して親近感と優しさを意味していることには気がつかない。神はみずから「お前たちのうちにあつて聖なる者。怒りをもって臨みはしない」(ホセ 11:9)と明言している。神は人間の理解を越える超越性のゆえに、「高く、聖なる所に住む」(イザ 57:15)いと高き方であるけれども、それと同時に「打ち砕かれて、へりくだる霊の人と共に」(イザ 57:15)住む方でもある。神は全能者であり、貧しい者の神である。その声を嵐{あらし}のうなりのうちに響かせ(出 19:18-20)、またそよ風のささやきのうちにこだまさせる(Ⅰ王 19:12)。神は人の目には見えず、モーセでさえもその顔を見ることはできなかった(出 33:23)。とはいえ、人間の心の琴線にふれる諸現象を通して、神は自らの心の内をうち明ける。神は、人間が神をなんらかの形で表現したり、あるいは像を作って人間の手の業を偶像として拝むことはいっさい禁ずる反面、ひじょうに具体的な形で、人間の想像力に訴えて自らを現わす。また、どんなものとも比べることのできない“まったく別のもの”であるが(イザ 40:25)、あらゆる場所が神の住みかであり、けっきょく神は人間にとってよそびとではない。神の人間に対する反応とふるまひは、人間の営む日常生活のなかでみられる、きわめてありふれたしぐさによって表現される。すなわち神は、「土(アダマ)の塵で人(アダム)を形づくり」(創 2:7)、箱舟のなかのものが滅びないようにノアの背後で箱舟の戸を閉めたり(創 7:16)している。また神には、戦いに勝利をおさめるつわものが示す意気込み(出 15:3-12)とか羊の群れに対して牧者がいづく心遣い(エゼ 34:16)がある。さらに神は、全宇宙を掌握しながらも、イスラエルという小民族に対して、ぶどう作りがぶどう園に対して示すような愛着(イザ 5:1-7)、父(ホセ 11:1)や母(イザ 49:15)が子に対してもつ愛情、男が恋人に対して注ぐような情熱(ホセ 2:16-17)をもっている。このような神の擬人化は、そぼくなものかもしれないが、いつも真の神のほんとうの姿をその奥深いところまでたくみに表現している。神が、人間をその似姿として創造したのであれば、人間が示す種々の動作と働きを通して、自らを啓示することも可能なはずである。系図も、配偶者も性もない神は、たしかに人間とは違っている。しかしこのことは、神が人間のもっているものを欠いているという意味ではなく、その反対に、人間があこがれるべき理想的人間像をそなえているということである。「神は人でないから、偽ることはない。人の子ではないから悔いることはない」(民 23:19)といわれるゆえんである。神は、つねに人間を超越した方であり、人間をどの方向に導くかは、人知では推測できない。(J. Guillet・聖書思想辞典)

# わたしの神との関係

---

1. 祈りのとき、あなたは神をどのように感じていますか？

A. 神はどこにいますか？ (例：近く、遠く、自分の内、自分の外)

---

B. 神はどんな印象を与えていますか？

---

C. どんな神のイメージをもって祈っていますか？ (例：父、母、先祖、友、愛しい人、先生、審判者、罰するもの、創造主、宇宙の力、霊、イメージしていない)

---

D. 神からどんな態度を期待していますか？

---

E. 祈りのとき、神はどんな態度をとっていると感じていますか？ (例：聞いている・聞いていない、返事する・しない、理解してくれる・しない、自分の話に興味がある・ない、自分を待っている・いない、喜んでくださる、自分に邪魔されている、自分のためにあまり時間がない)

---

2. どのように祈りますか？ (神との時間の過ごし方:形式的、習慣的、義務的、自由に、自発的)

---

---

3. あなたの祈りの主な内容は何ですか？ (例：お願い、感謝、賛美、お詫び、悩みや喜びの分かち合い、人生や他のことについて考えていること、神のことや聖書のことばを理解しようとしていること、安心して、ぼっとしていること、沈黙にとどまる)

---

---

4. 祈りのときは、普段あなたは誰ですか？

A.  罪人

正しい人

B.  来客

身内 (愛されている子)

C.  価値のある人

価値のない無に等しいもの

D.  子供

大人

E.  自信のある人

自信のない人

F.  開かれている (相手を受け入れる) 人

自己防衛的になっている人

G.  信頼する者

疑う者

5. 祈りのとき、あなたが主に何の感情を抱いていますか？ (例：無感、愛、喜び、悲しみ、混乱、緊張、不信、信頼、退屈、落ち着き、安心、暖かさ、不安、恐れ、感謝、いらいら)

---

---

6. あなたにとって誘惑とは何ですか？

---

---

誘惑と戦うとき、（誘惑に落ちないために）あなたにとってどんな動機が一番効果的ですか？

- A.  罰せられるから
- B.  結果的に自分に利益にならないから
- C.  他人を悲しませ傷つけるから
- D.  神を悲しませ傷つけるから
- E. その他 \_\_\_\_\_

7. あなたの子供時代の神の像や祈り方と現在の神の像と祈り方を比較してみてください。何が変わってきましたか。どのように？

---

---

8. 今は、どうして神を信じていますか？神の現存や神の愛を実感した体験がありますか？いつ、どんな体験ですか？

---

---

---

9. あなたの神との関係を深めたいと思っていますか？なぜ？

---

---

10. 今、自分の神との関係について気がついたことがありますか？何ですか？

---

---

---

---

---

# 神の体験

私たちいつも一緒におられる神は、絶えず私たちに働きかけられ、ご自分の現存を表してくださいますが、多くの場合、人間は、あまりの忙しさのために、神の働きかけにも、神の現存にも、気が付くことはありません。また、自分の人生の旅をゆっくり振り返るために時間をとったとしても、神はどういうふうに働いておられるか、どういうふうにご自分の現存を表しているか、ということを知らないために、自分の体験の中で神を見出すことも出来ないことがあります。

しかし、自分の人生において神を見出すために、または神との個人的な関係を結ぶために、今でも遅くはありません。神は、ご自分のすべての働きを通して表してくださいました、私たちに對するご自分の望みは、変わることなく、いつも有効です。私たちは、今からでも、過去の体験の中において、神の言葉、つまり私たちに對する神の望みを発見することも、それに答えることも出来ます。

神は、いつも私たちと共にいてくださり、絶えず働いてくださいますが、神の現存と働きは、ある特別な体験を通してより見出しやすいものです。以下の霊操は、そのような体験を紹介し、あなたの人生において神の現存や神の働きを見出す、または、神の呼びかけを聞き取る助けとなるでしょう。

## 第1 霊操

目的：神の働きと神の現存のしるしが見出せる体験を思い出すこと

- ◆ 静かに座って、ちょっと落ち着いてから、沈黙の中で、自分の人生の全体を見て、転換期になった体験、自分の大きな成長に繋がった体験（出来事、出会い、恵みなど）を思い出し、メモを取ってください。
- ◆ 次に、以下のポイントを一つずつ、ゆっくり読んで、それを想像してみてください。それから、自分の人生の期間を順番（例えば：幼稚園、小学校、中学校）に振り返ってみて、それに似ている体験を探してみてください。そのような体験を思い出したら、メモを取ってください。
  1. 誰かのために生きたい、自分の人生を奉獻したいと望んだ。それとも、誰かを無償で、必要であれば自分の力や時間などを惜しみなくかけて、助けたいと望んだ。
  2. 誰かと出会ったとき、この人と深いところで繋がった、深い絆を結んだと感じた。多くの言葉を語らなくても、伝えたいことが通じた。相手が完全に自分のことを理解し、受け入れたと感じた。
  3. いきなり、何らかの形の美しさや善と出会った（例えば、自然、美術、音楽、人間、または、誰かの言葉や行いなど）。非常に驚いて、感動した。言葉を失って、ただそれを仰ぎ見た。その瞬間はいつまでも続いてほしかったが、この美しさや善を所有や利用したり、管理したりしたいという欲がなかった。この体験は、大きな驚きでありながら、静けさ、平安、感謝、賛美などのような気持ちをもたらした。
  4. どういうことかよく分からなかったが、何か偉大なことを望んだ。それを望んだとき、非常に大きな幸福を感じて（善と愛に満たされた現実に包まれて、自分がこの現実の一部であった。自分の存在は望ましいもので、大きな価値があって、いいものである。生まれてよかった。生きているのはすばらしいなど）、自分のことを忘れた（自分の罪や価値、恐れ、心配、欲求、野心、過去や未来など）。

## 第2 霊操

目的： 思い出した体験を深め、その意義を読み取ること

- ◆ 第1 黙想の中で思い出した体験の中から一つを選んでください。(後で、別の体験を選んで、この霊操を繰り返し、結果を比較すると、また新しいことに気が付くことがあるでしょう。いろいろな体験の共通点や繋がり、または、一つの道になっているかどうか調べます。)

- 目を閉じて、想像力を使って選んだ体験が起こったときに戻ってみてください。
- この体験の直前に何が起こったでしょうか。
- この体験の雰囲気、または感情や気持ちを思い起こしてください。
- どんな状況でしたでしょうか。
- どんな考えや望みを思い出しますか。
- どんなことが起こりましたか。
- この体験が終わった後、何を感じましたか、どんな印象が残っていましたか。

今のところは、この体験を分析したり、評価したりするのではなく、自分の記憶、感情、想像力が自由に動くようにしてください。

この体験に伴う感情や気持ちは、あなたがまだ意識していない望み、あるいは、過去に抑えて、今は忘れていた、あなたの最も深い望みが満たされた結果であったと考えられます。人間は、いくら努力しても、自分の力だけでは、そのような望みを満たすことが出来ません。この望みが満たされたのは、神の働きの結果で、つまり神からの賜物でした。この賜物によって、神はあなたに対するご自分の愛を表し、あなたのためのご自分の望みを示してくださいました。もし、この体験によって、あなたが人間として少しでも成長したのならば、意識的にはなかったかもしれませんが、この賜物を受け入れて、それによって表された神の呼びかけに、ある程度まで応えたということが分かります。

- ◆ 体験の想像を終わったら、以下の質問に答えて、それを回想してみてください。

- この体験は、あなたの人生にどんな影響を与えたのでしょうか。
- この体験によって、あなたの生き方に何か変化が起こりましたか。この変化はどんな方向を示しているのでしょうか。
- この体験において、どんな望みが満たされたと考えられるのでしょうか。
- どうして、神は、別の時ではなく、この時にこそ、この望みを満たし、この賜物を与えたのでしょうか。
- この体験によって、神はあなたに何を伝えたかったのでしょうか。
- この体験を通して、あなたは何に呼びかけられたのでしょうか。
- この呼びかけには、どういうふうに応えたいのでしょうか。

もし、私たちは、自分の人生において、神の現存と働きが見出せるようになるならば、神が本当に、いつも共にいてくださり、あらゆる体験の中、例えばそれは、神が求めていないことであっても、働いてくださると知り、実感するようになります。

あらゆる出来事や体験の中で語られる神の言葉を聞き取ること、つまり、私に対する神の望みを見出すことは、非常に大事ですが、それよりも決定的なのは、私たちの答えなのです。私たちは、神の言葉を受け入れて、それに応えることによってだけ、神は私たちを変えることが出来るし、私たちの神との関係が深まっていきます。それによって、私たちの目が少しずつ開かれ、現実全体は神の現存と神の愛で満たされていると知るようになります。